

2016年度 第2四半期決算説明会

第93期:第2四半期累計期間(2016年4月1日～2016年9月30日)

2016年11月10日



太平洋互業株式会社

目次

1. 会社概要
2. 2016年度第2四半期業績実績
3. 2016年度業績予想
4. 中期経営計画

本資料取り扱い上の注意点

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したものであり、日本および海外の経済情勢や当社の関連する業界動向、為替変動等にかかわるリスクや不確定要因により実際の業績が記載の予想と大幅に異なる可能性があります。

1-1 会社概要

海外6カ国12社、国内8工場

■ 海外拠点

《バルブ事業》

ベルギー



Pacific Industries Europe NV/SA.

中国



太平洋汽車部件科技(常熟)有限公司

タイ



Pacific Industries (Thailand) Co., Ltd.

韓国



太平洋バルブ工業株式会社

韓国



太平洋エアコントロール工業株式会社

《プレス・樹脂事業》

米国



Pacific Industries USA Inc. [統括会社]
Pacific Manufacturing Ohio, Inc.

米国



Pacific Manufacturing Tennessee, Inc.

台湾



太平洋汽門工業(股)有限公司

■ 国内拠点

《バルブ事業》



【北大垣工場】



【美濃工場】

《プレス・樹脂事業》



【本社・西大垣工場】



【東大垣工場】



【養老工場】



【九州工場】



【栗原工場】

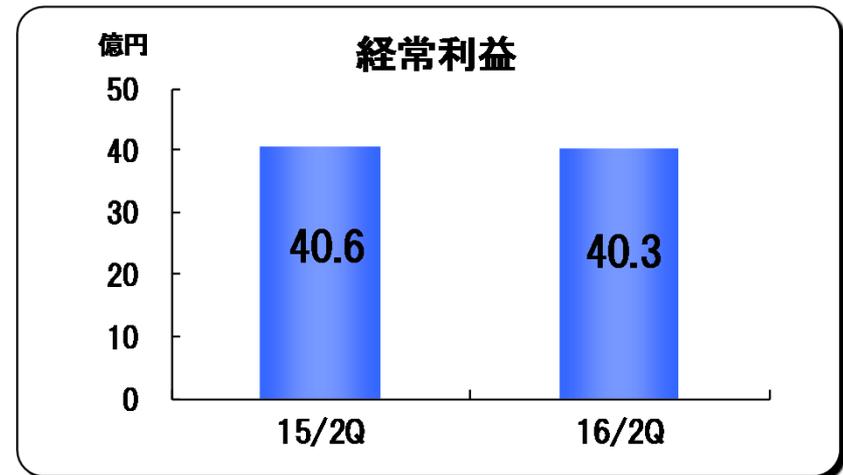
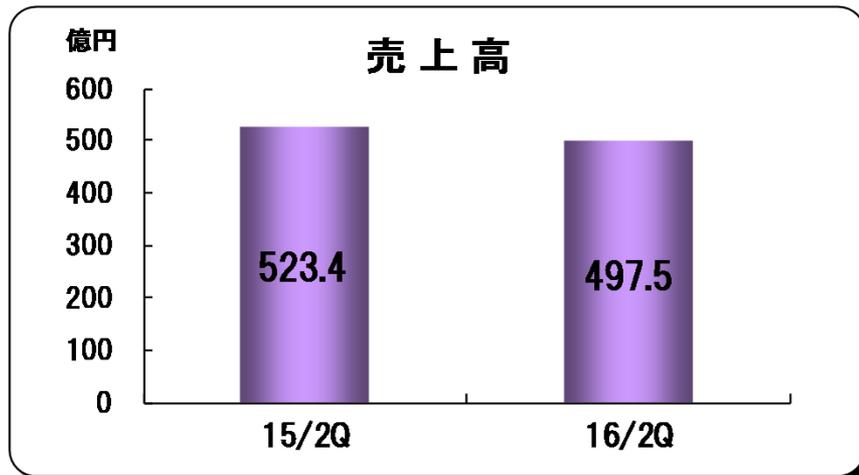


【若柳工場】

2-1 第2Q 連結業績

(百万円、%)

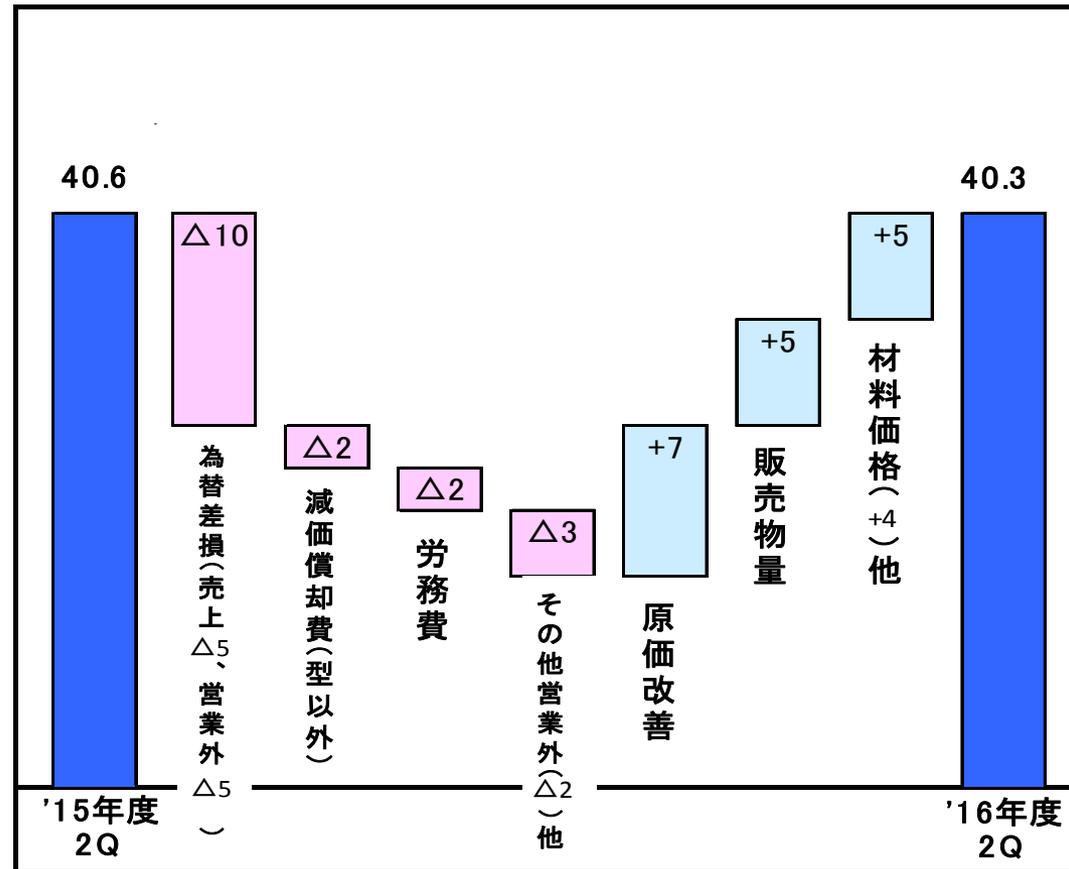
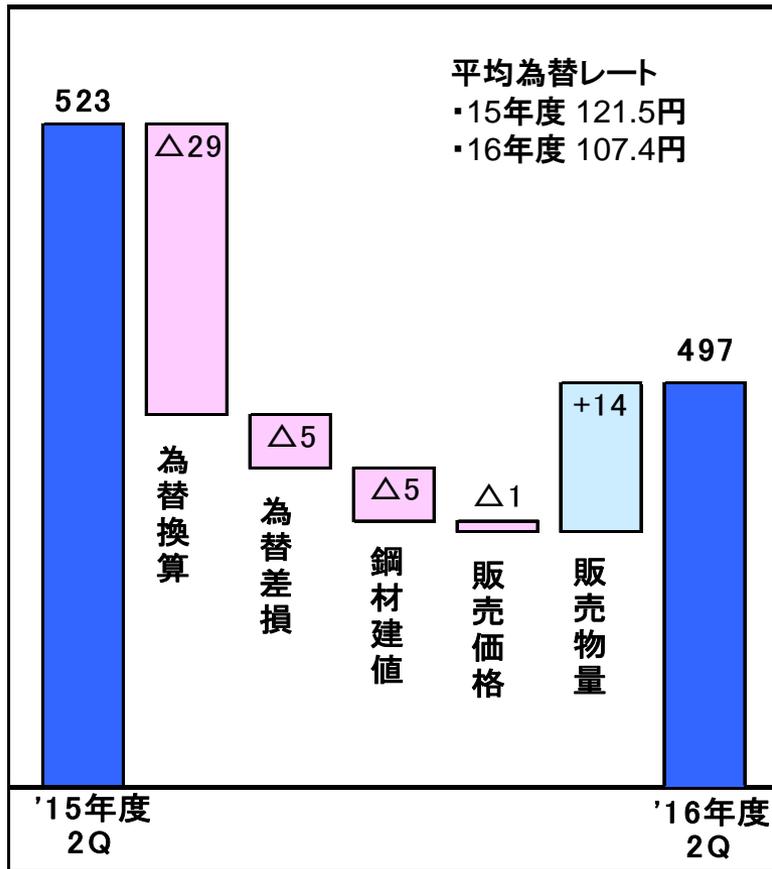
	前第2 四半期	第2四半期				前年同期比		第2四半期累計
		7/28 前回予想値	実績	前回予想比		増減	増減率	
				増減	増減率			
売上高	52,340	48,000	49,754	1,754	+3.7	△2,586	△4.9	5期振りの減収
営業利益	3,393 6.5%	3,000 6.3%	4,056 8.2%	1,056	+35.2	663	+19.5	5期連続の増益 過去最高
経常利益	4,064 7.8%	3,100 6.5%	4,035 8.1%	935	+30.2	△28	△0.7	2期振りの減益
四半期純利益	3,365 6.4%	2,200 4.6%	3,094 6.2%	894	+40.6	△271	△8.1	5期振りの減益



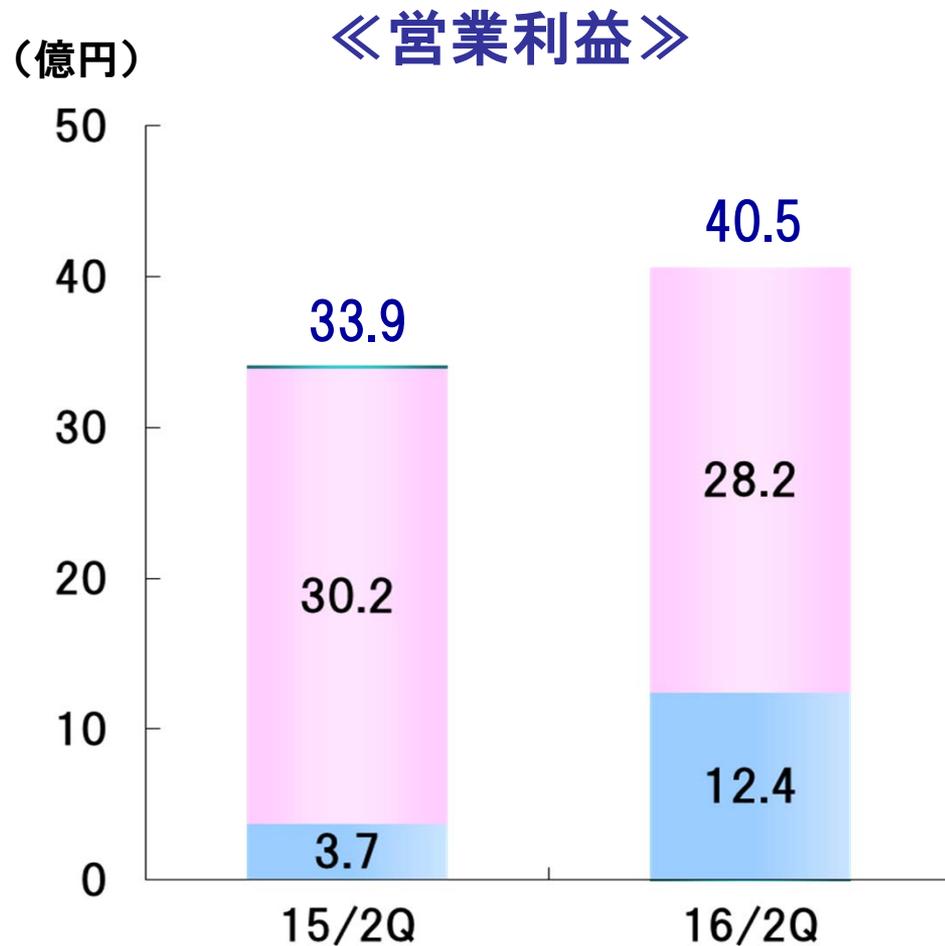
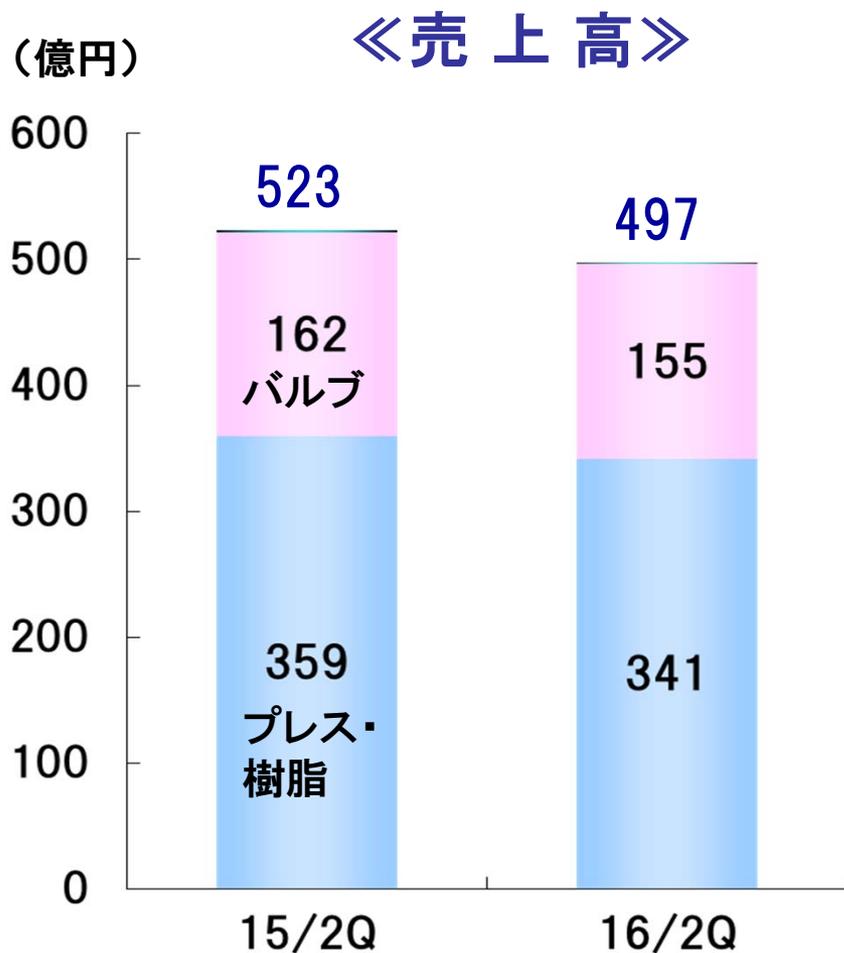
2-2 第2Q 連結利益増減要因

《15年度2Q 対 16年度2Q》
売上高△26億円

《15年度2Q 対 16年度2Q》
経常利益±0億円



2-3 第2Q 連結事業別セグメント



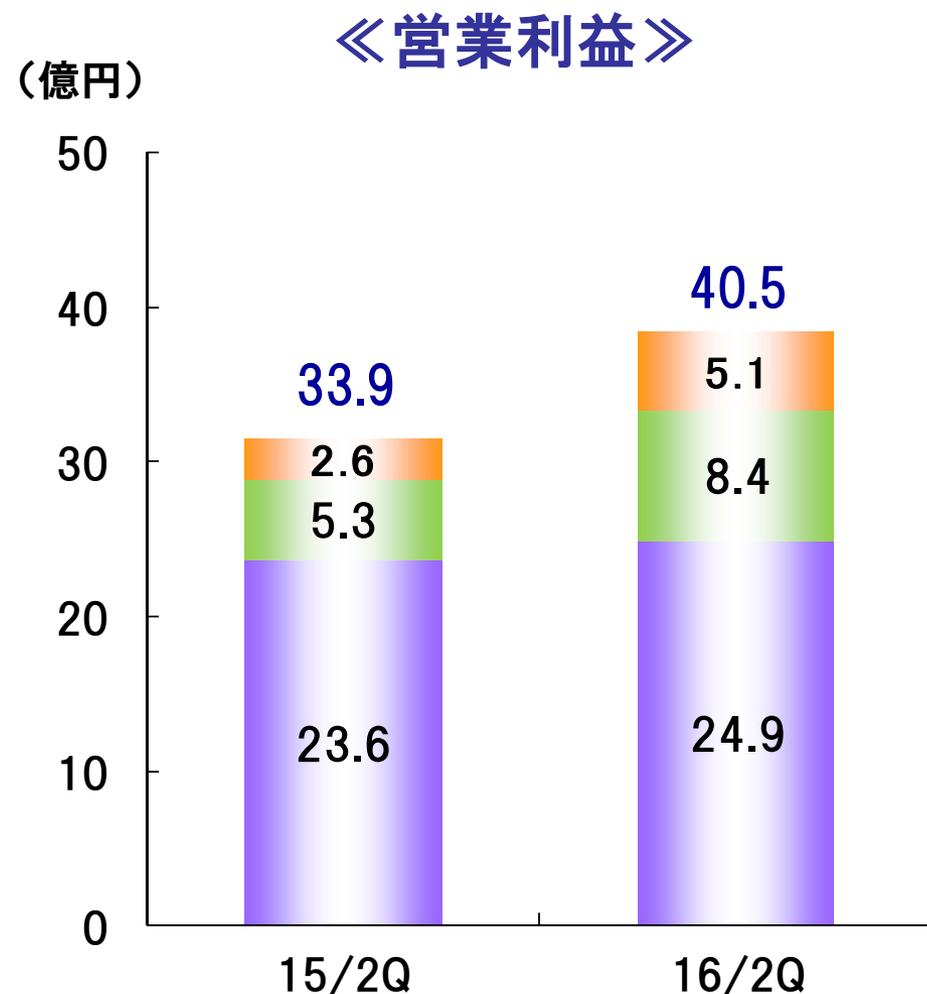
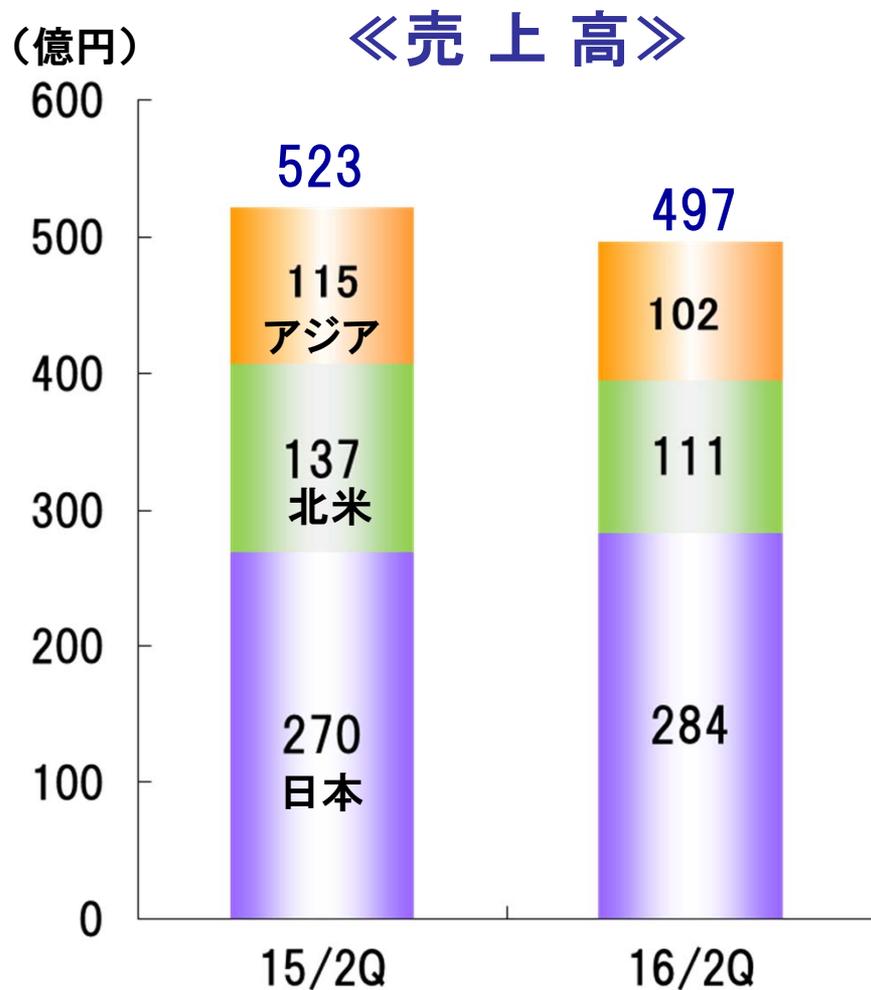
<売上高>

プレス・樹脂: 日本は増収なるも、海外会社の為替影響等で減収
バルブ : 販売物量は増加するも、為替影響により減収

<営業利益>

プレス・樹脂: 原価改善、物量増等により大幅増益
バルブ : 原価改善、物量増あるも、為替影響が大きく減益

2-4 第2Q 連結地域別セグメント



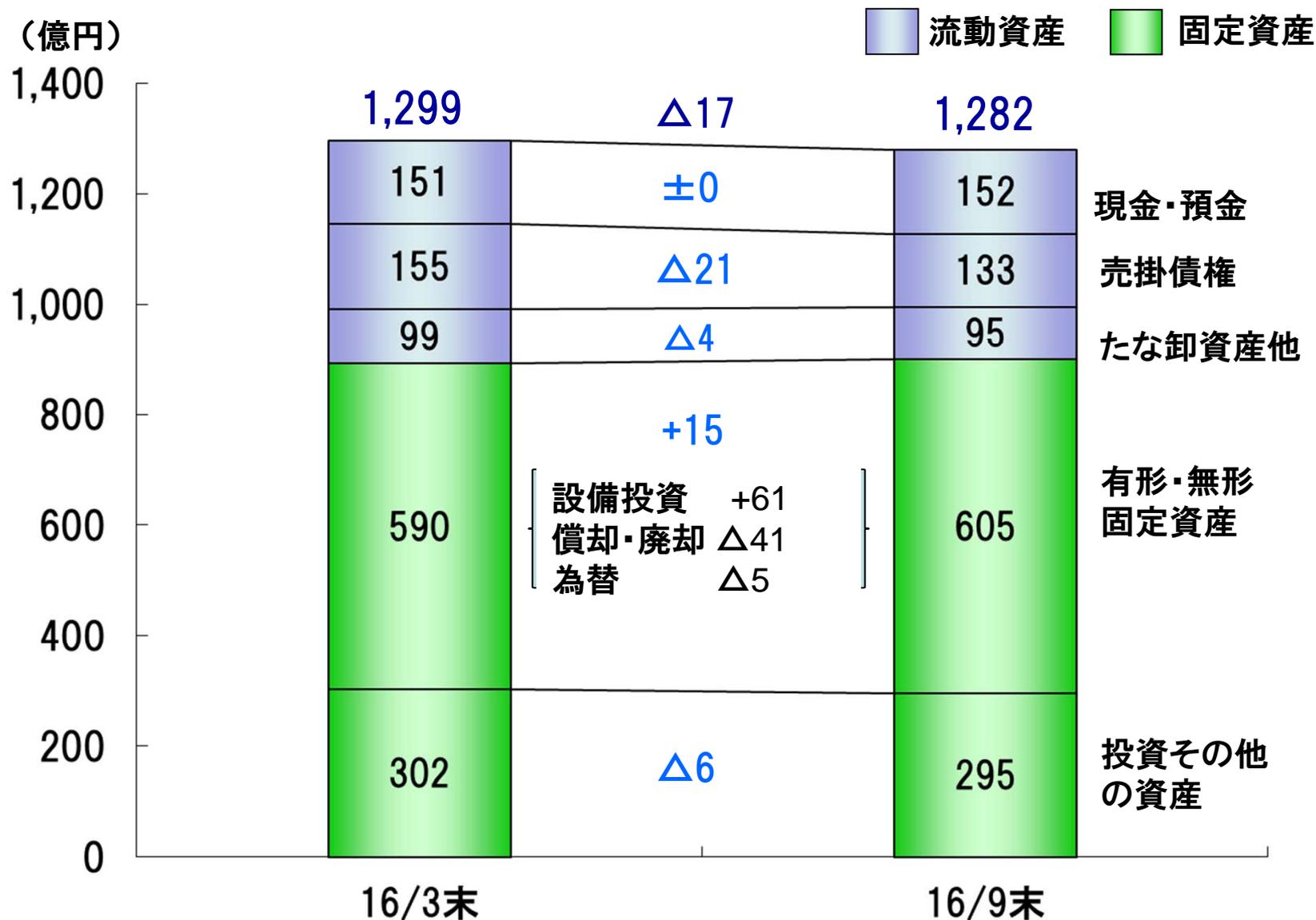
<売上高>

日本 : プレス・樹脂、TPMS製品の物量増加により増収
 北米 : 金型売上減少、為替影響により減収
 アジア : 為替影響、台湾プレス事業の物量減により減収

<営業利益>

日本 : 物量増、原価改善等により増益
 北米 : 原価改善、テネシーの立上げコスト減少等により増益
 アジア : タイ子会社の樹脂事業の採算向上等により増益

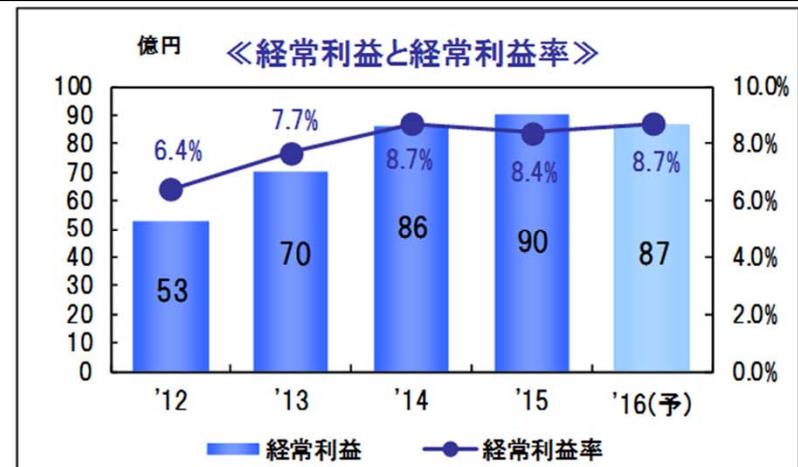
2-5 第2Q 連結総資産増減内訳



3-1 通期 連結業績予想

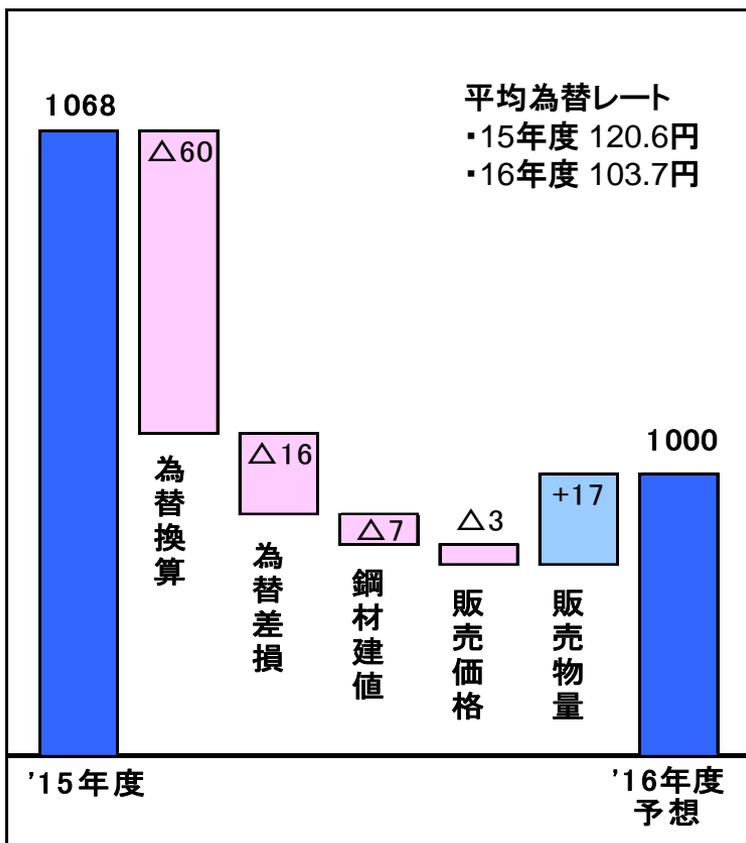
[百万円]

	'14	'15	'16 (7/28予想)	'16 (今回予想)	前回予想比		前期比		連単 倍率	通期(予想)
					増減	増減率	増減	増減率		
売上高	99,952	106,886	100,000	100,000	—	—	△6,886	△6.4%	1.5	5期振りの減収
営業利益	6,962	7,869	7,000	7,900	900	12.9%	31	0.4%	1.5	5期連続の増益 過去最高
経常利益	8,691	9,013	8,000	8,700	700	8.8%	△313	△3.5%	1.4	5期振りの減益
当期純利益	6,714	7,114	5,800	6,300	500	8.6%	△814	△11.4%	1.3	4期振りの減益
経常上利益 高率	8.7%	8.4%	8.0%	8.7%	0.7%		0.3%			
R O E	10.2%	9.7%	8.0%	8.7%	0.7%		△1.0%			
R O A	6.9%	6.8%	6.1%	6.7%	0.6%		△0.1%			
一株当り 純資産 ^(円)	1,385	1,339	1,327	1,339	12	0.9%	-	-		

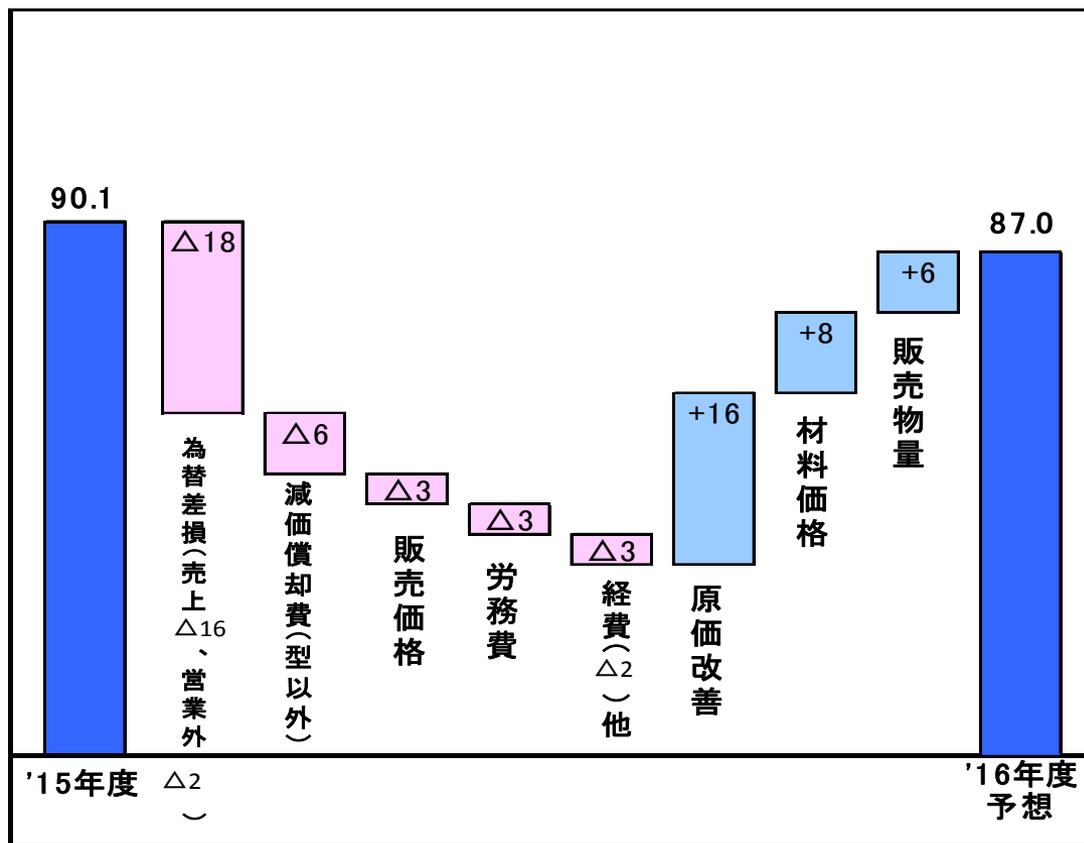


3-2 通期 連結利益増減要因

《15年度 対 16年度予想》
売上△68億円

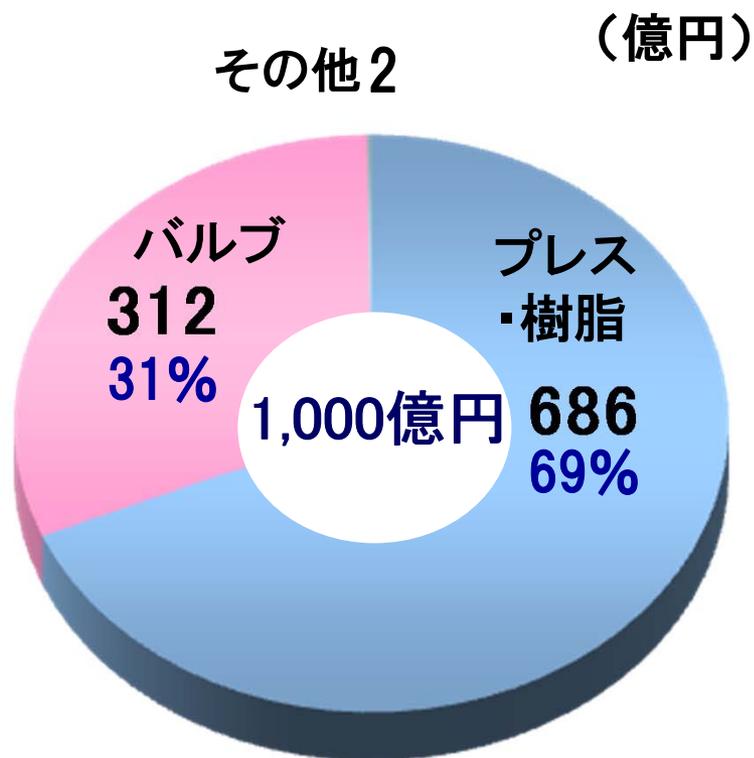


《15年度 対 16年度予想》
経常利益△3億円

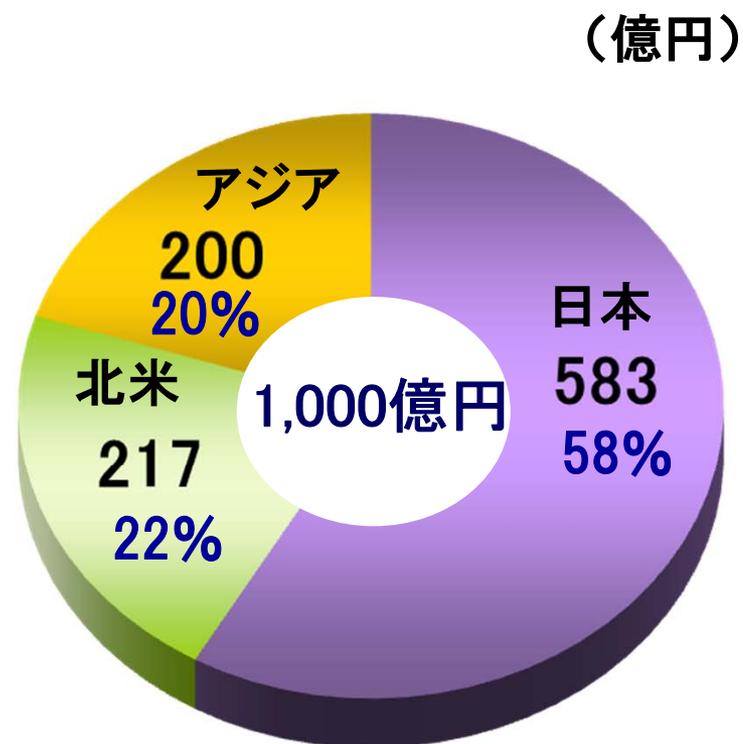


3-3 2016年度連結セグメント予想

事業別売上高

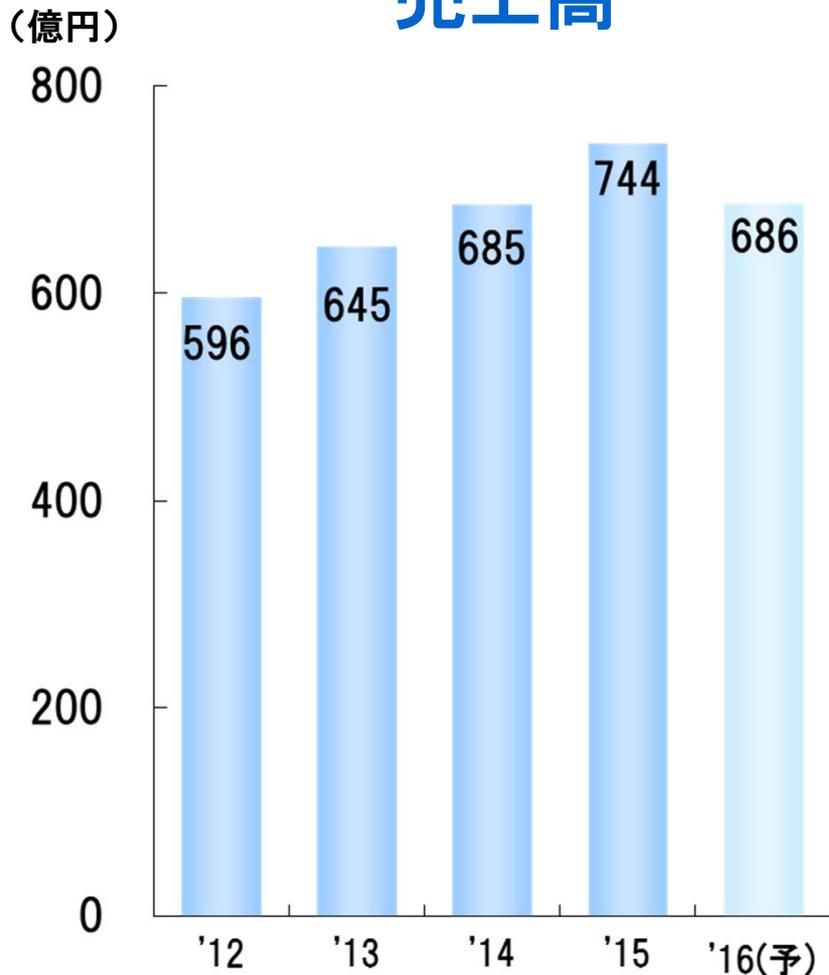


地域別売上高



3-4 事業別セグメント: プレス樹脂製品事業 ¹²

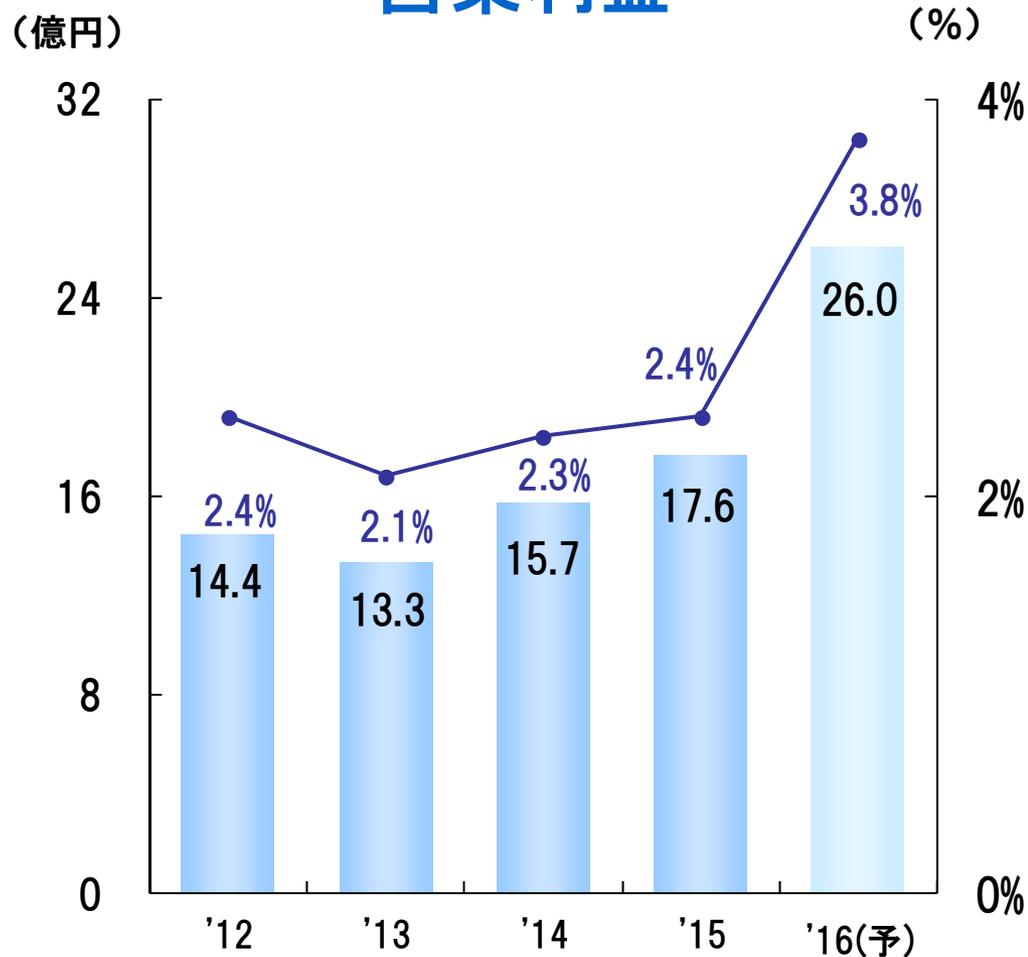
売上高



<売上高>

日本: 主要顧客の自動車生産増加、車種構成により増収
海外: 米国・中国・台湾共に為替影響が大きく減収

営業利益

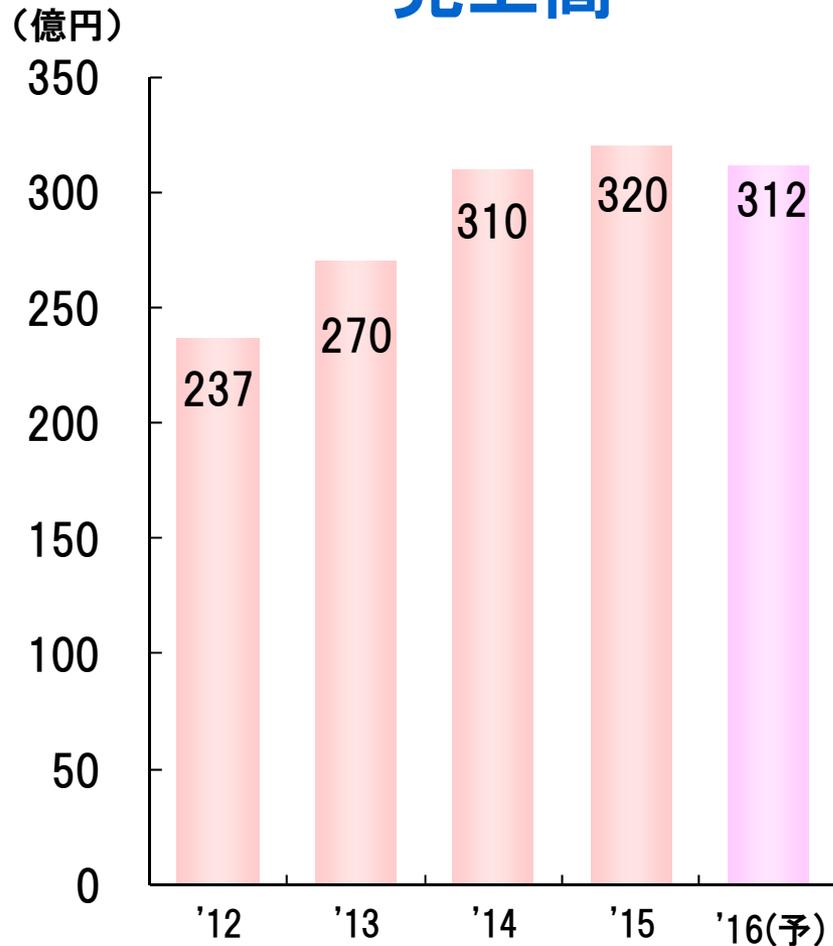


<営業利益>

日本: 物量増、原価改善により増益
海外: 台湾は物量減による減益、米国は原価改善等により増益

3-5 事業別セグメント：バルブ製品事業

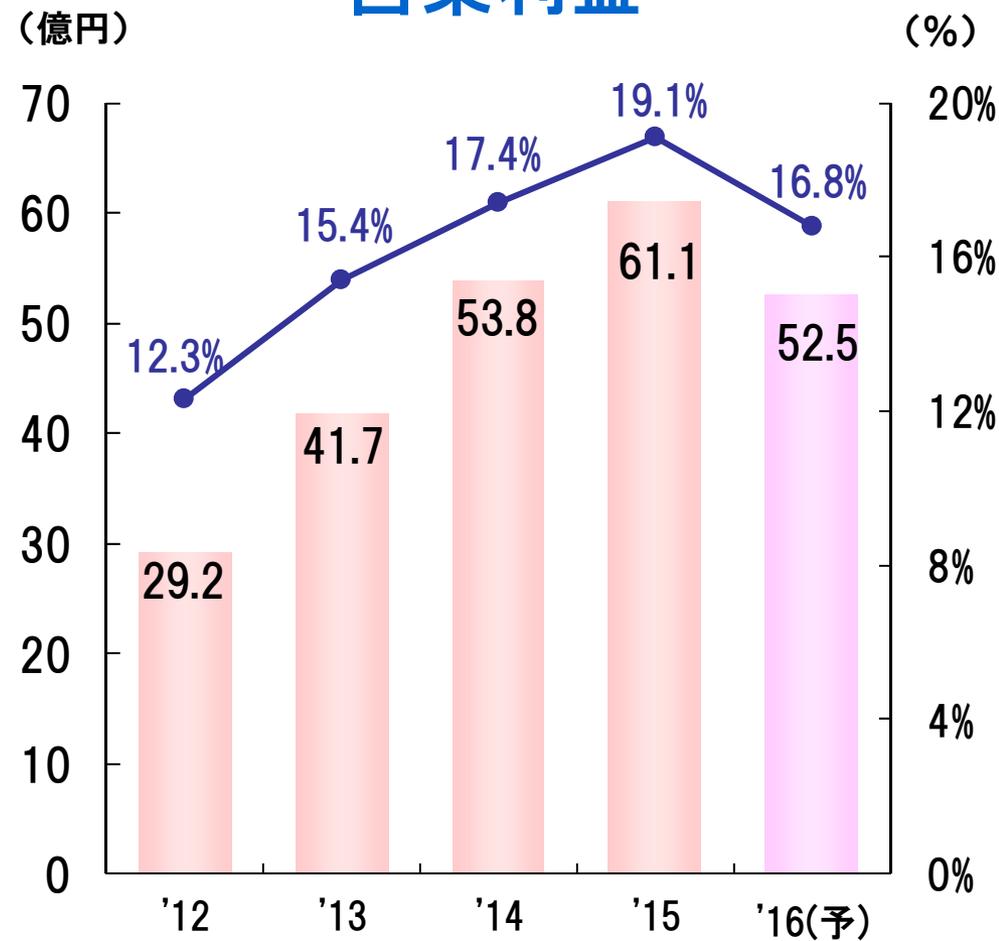
売上高



<売上高>

日本：バルブ関連製品は堅調、TPMS製品の増加により増収
 海外：中国 常熟のTPMS製品の売上は増加するも、その他の地域は為替影響が大きく減収

営業利益

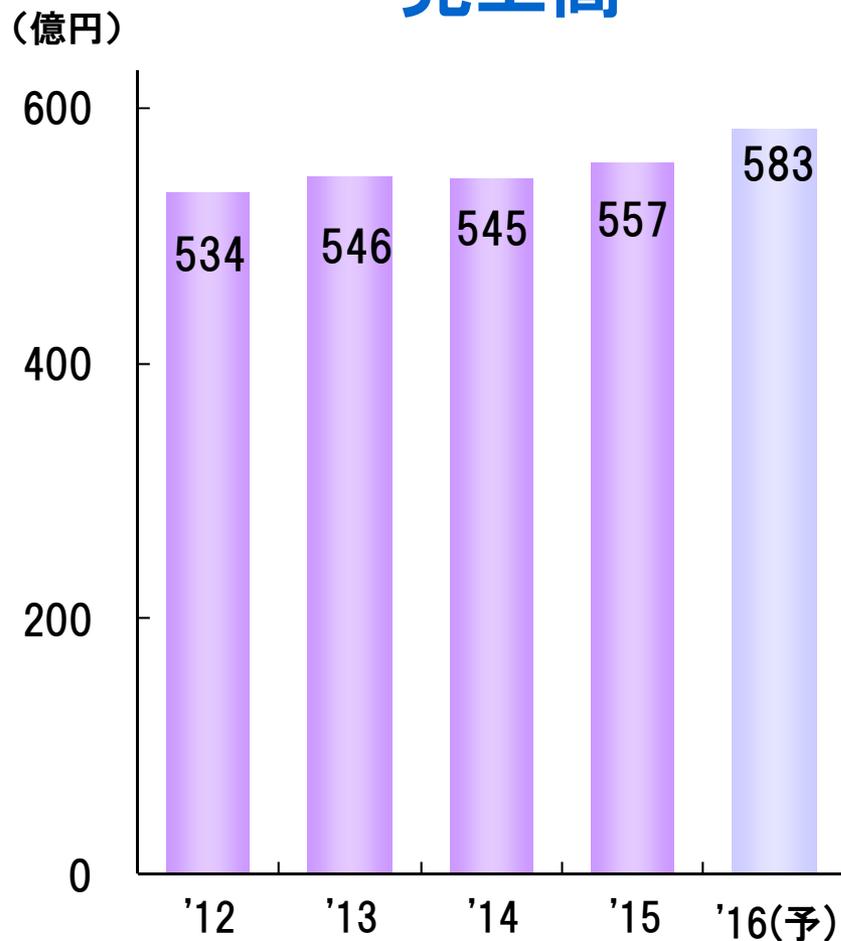


<営業利益>

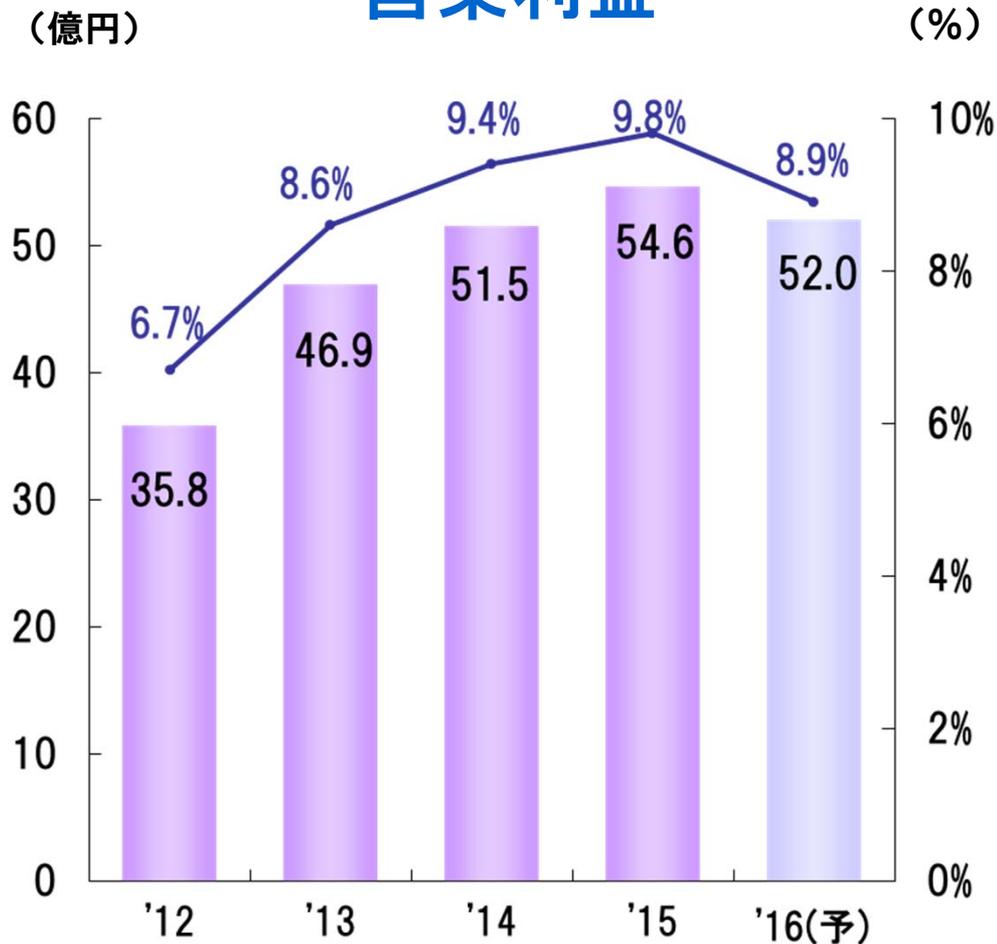
日本：原価改善、材料安あるも、為替影響が大きく減益
 海外：中国 常熟の立上げコスト減等あるも、米国・台湾・タイの減少により減益

3-6 地域別セグメント:日本

売上高



営業利益



<売上高>

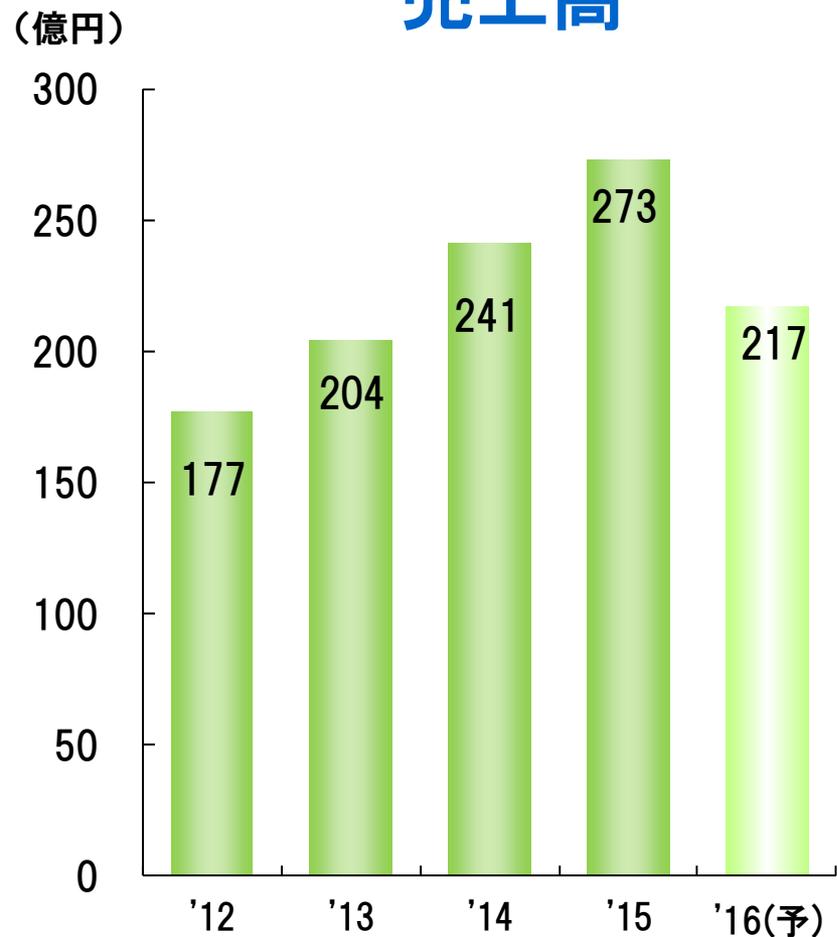
プレス・樹脂: 主要顧客の自動車生産増加、車種構成により増収
バルブ : TPMS製品の販売物量増加により増収

<営業利益>

プレス・樹脂: 物量増、原価改善効果により増益
バルブ : 原価改善、材料安あるも、為替影響が大きく減益

3-7 地域別セグメント:北米

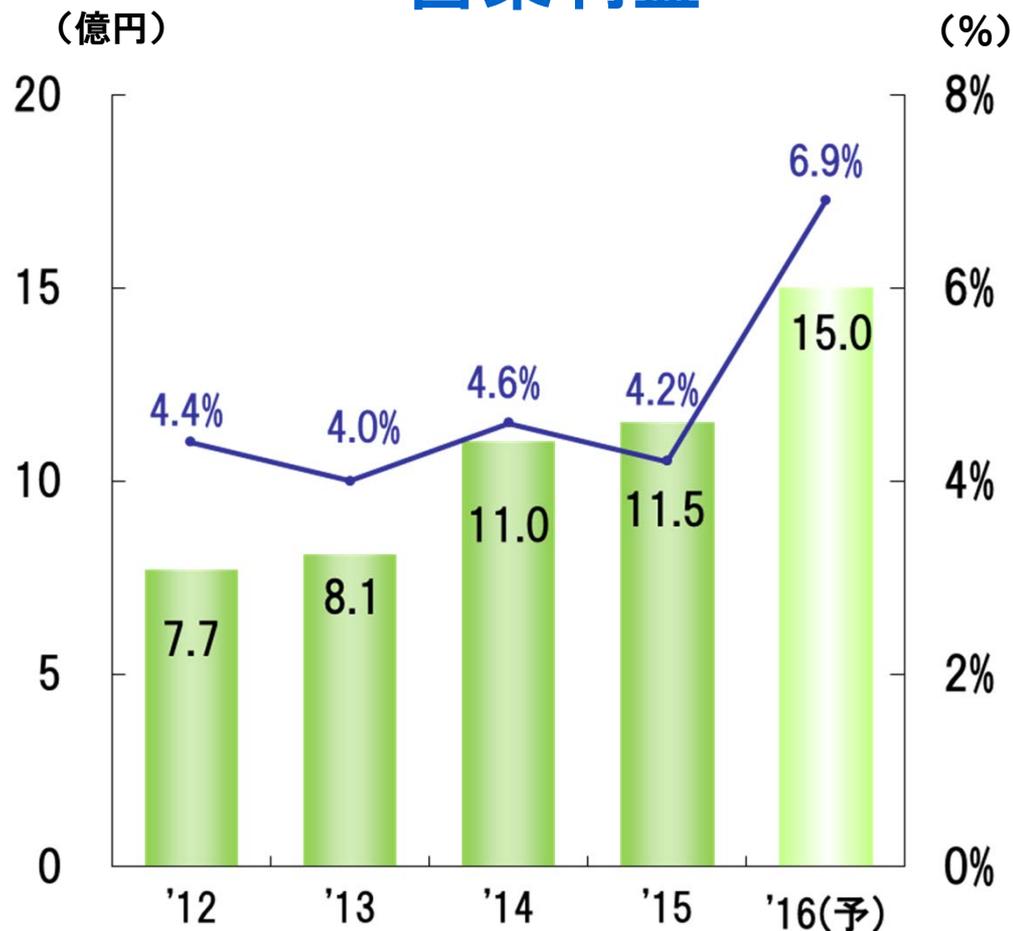
売上高



<売上高>

プレス・樹脂: 金型売上減少、為替換算により減収
バルブ : バルブ製品、TPMS製品共に為替影響により減収

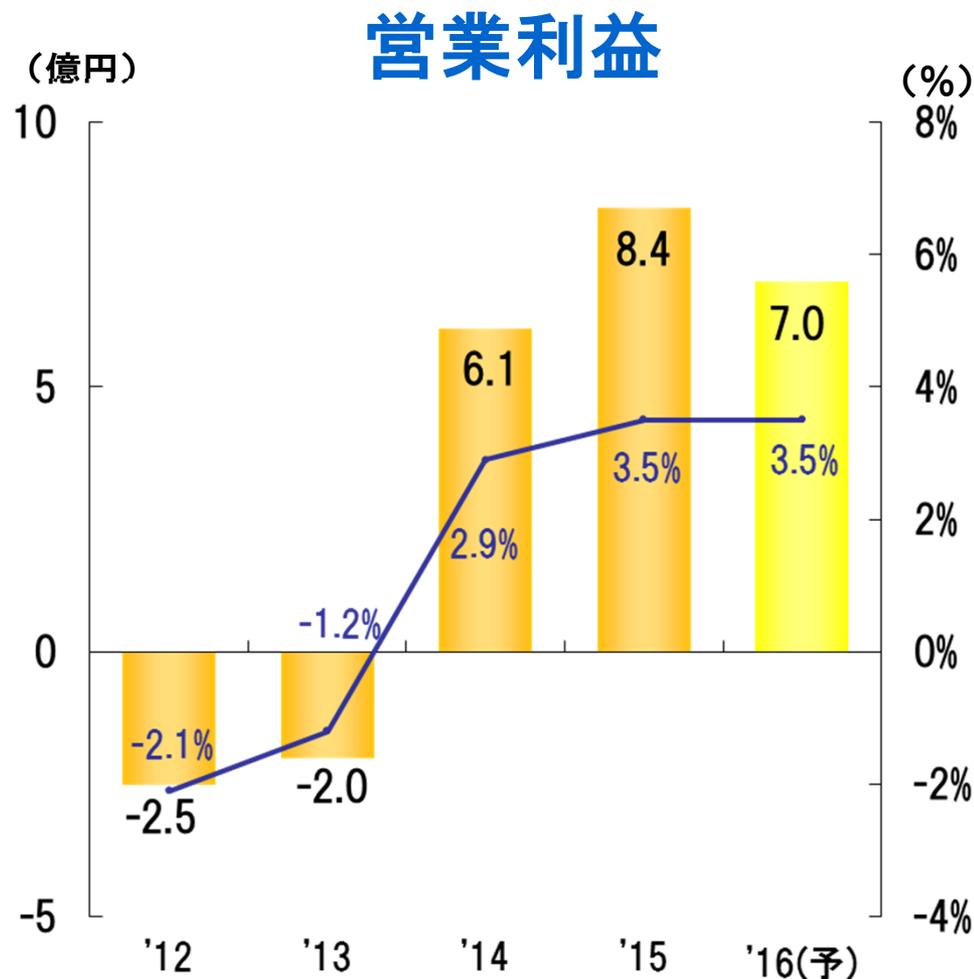
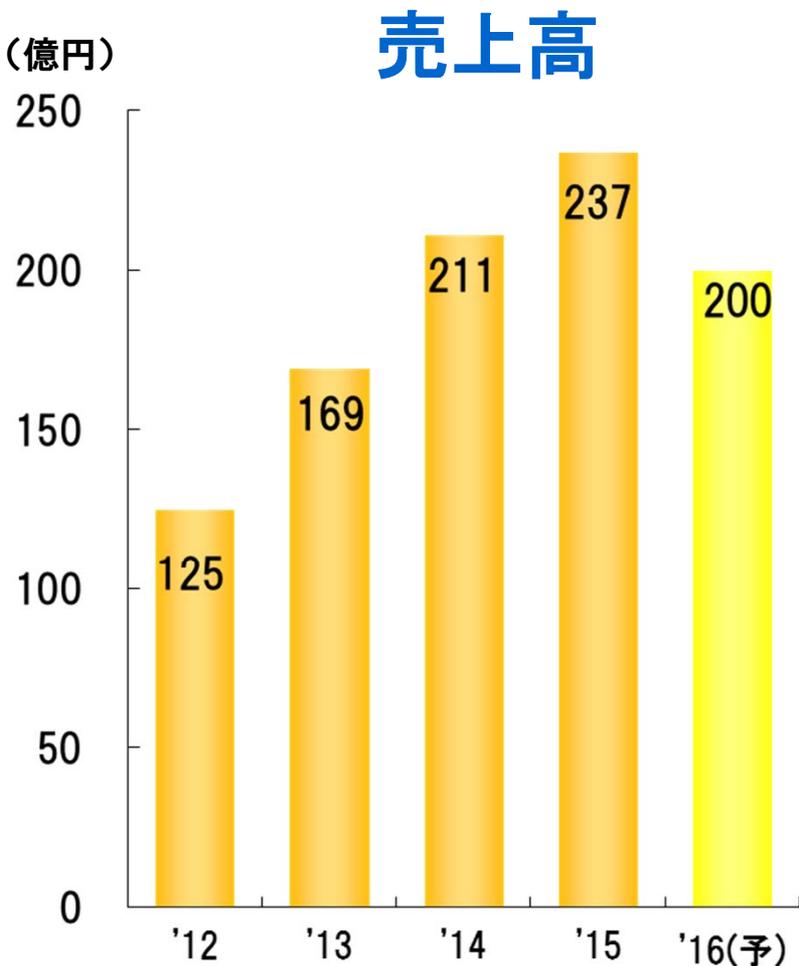
営業利益



<営業利益>

プレス・樹脂: 原価改善、テネシー子会社の立上げ費用減少により増益
バルブ : 為替影響等により若干の減益

3-8 地域別セグメント:アジア



<売上高>

プレス・樹脂: 台湾の減少および為替影響により減収
バルブ : 中国 常熟のTPMS製品の売上は増加するも、
韓国・タイは為替影響により減収

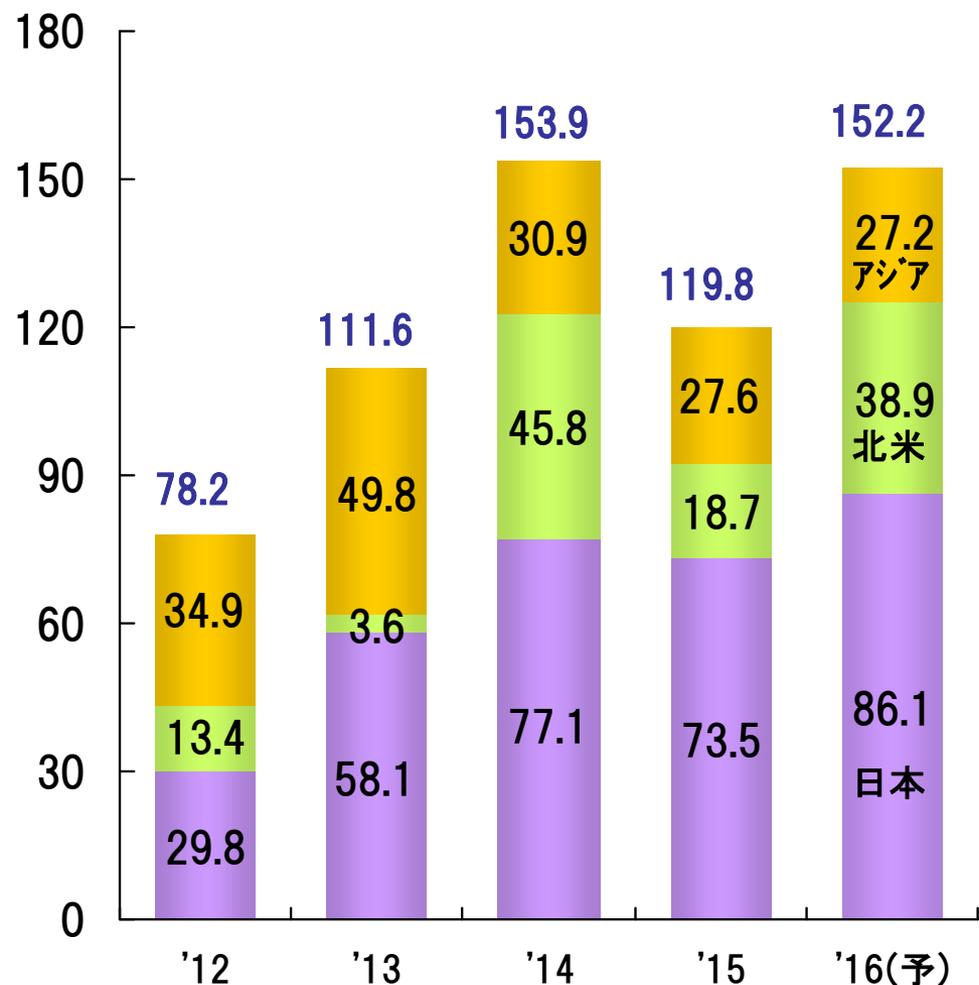
<営業利益>

プレス・樹脂: タイ樹脂事業の増益あるも、台湾の減少により減益
バルブ : 中国 常熟のTPMS製品増益、韓国堅調により横ばい

3-9 連結設備投資・減価償却費予想

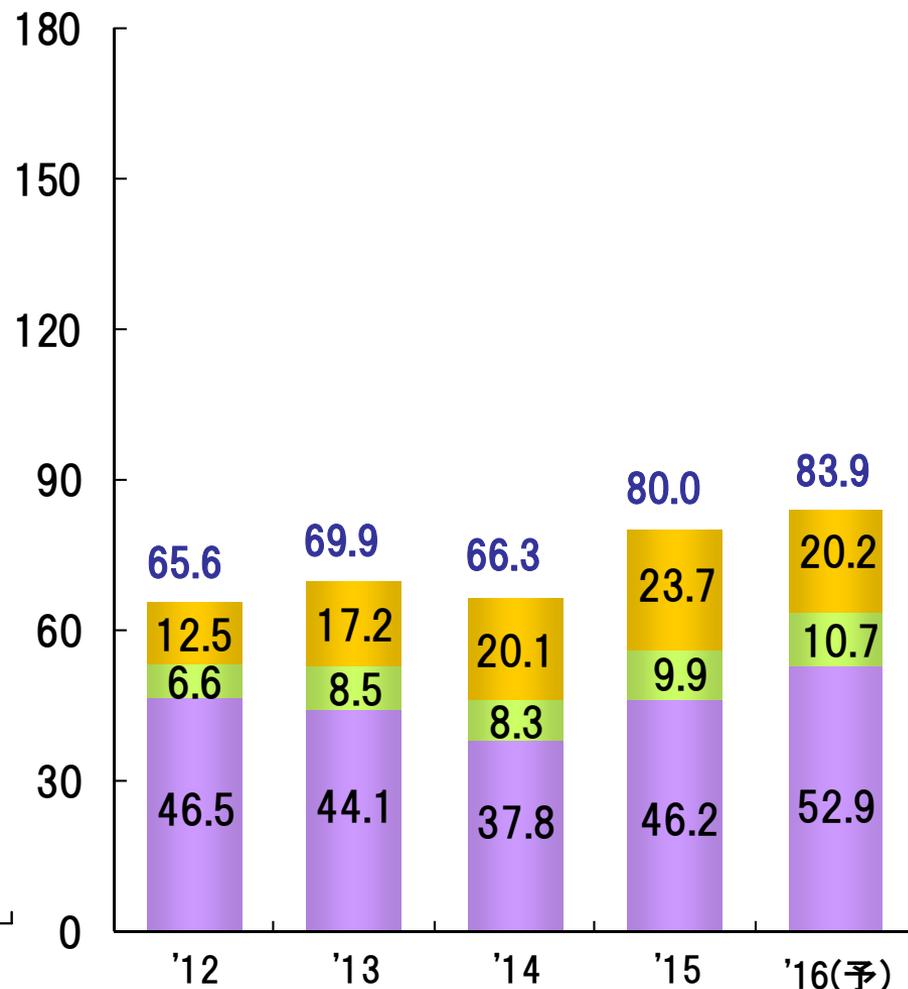
《設備投資》

(億円)



(億円)

《減価償却費》

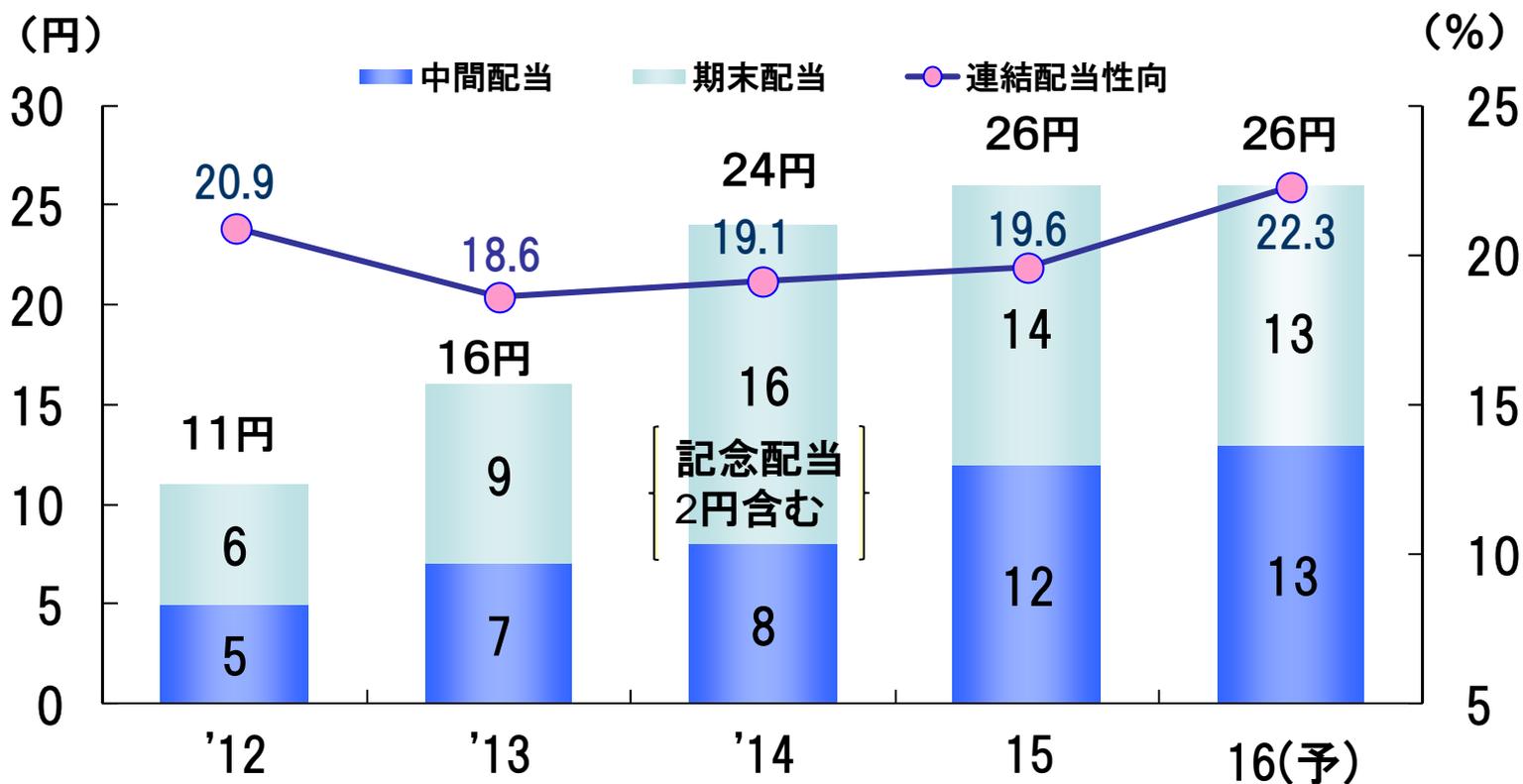


3-10 株主還元

■年間配当

2015年度 年間:26円(中間:12円 期末:14円)

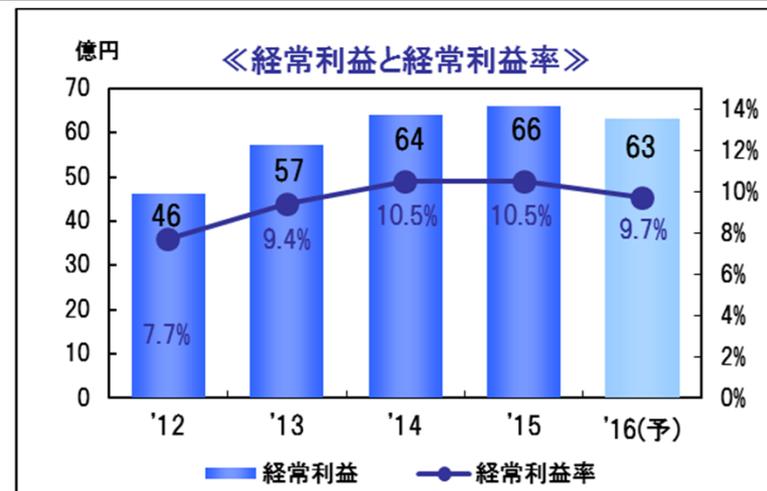
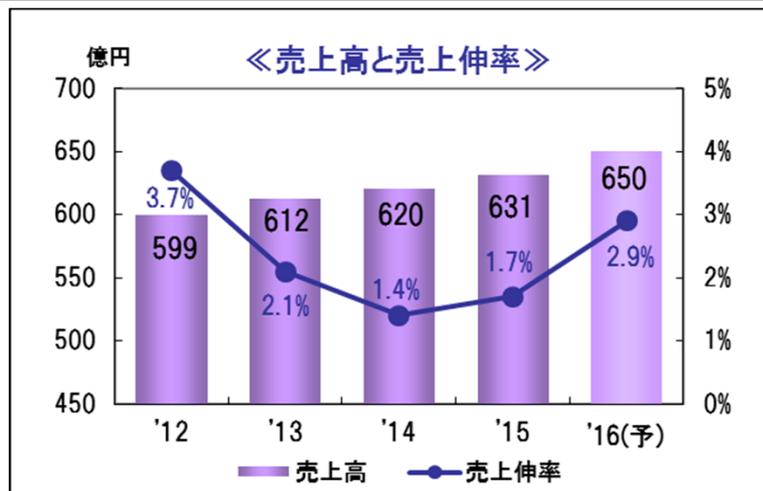
2016年度予想 年間:26円(中間:13円 期末:13円)



3-11 <参考> 個別業績

[百万円]

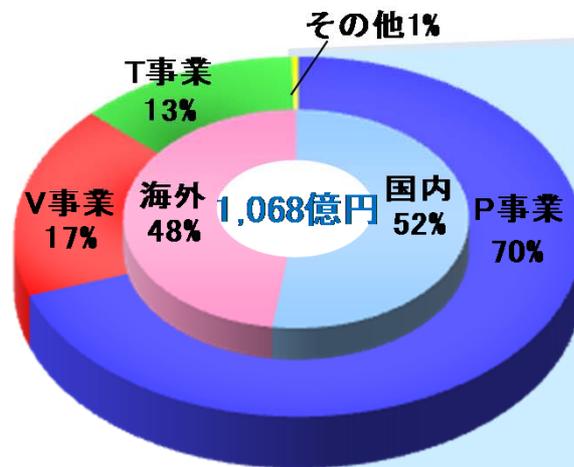
	第2四半期		前期比		通期		前期比		通期(予想)
	'15	'16	増減	増減率	'15	'16	増減	増減率	
売上高	30,770	31,919	1,148	3.7%	63,146	65,000	1,854	2.9%	5期連続の増収
営業利益	2,330	2,488	157	6.8%	5,361	5,200	△161	△3.0%	5期振りの減益
経常利益	3,135	2,803	△331	△10.6%	6,660	6,300	△360	△5.4%	8期振りの減益
当期純利益	2,777	2,373	△403	△14.5%	5,350	4,700	△650	△12.1%	8期振りの減益
配当金(1株当り)	12円	13円	1円	8.3%	26円	26円	—	—	
売上高経常利益率	10.2%	8.8%	△1.4%		10.5%	9.7%	△0.8%		
ROE	—	—	—		9.9%	8.5%	△1.4%		
ROA	—	—	—		6.4%	6.0%	△0.4%		
一株当り純資産(円)	994	1,015	21	2.1%	996	1,045	49	4.9%	



4-1 中期経営計画「OCEAN-18」

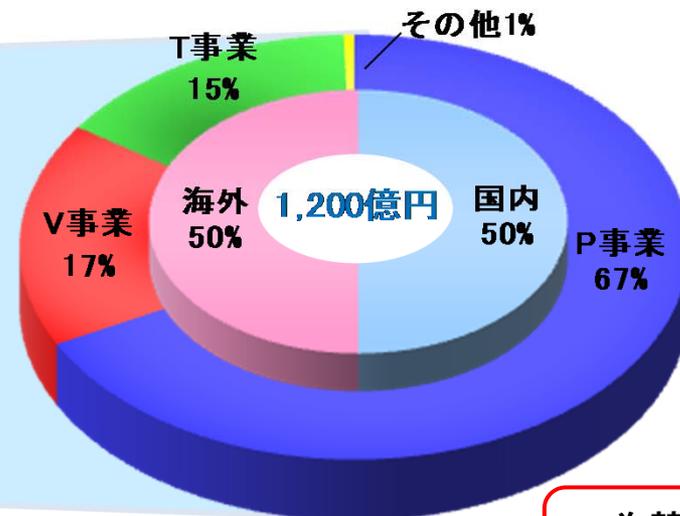
2018年度連結売上高目標：1,200億円

2015年度 実績



為替 121円/\$

2018年度 目標



15年11月改訂
為替 115円/\$

為替100円/\$
売上：1,100億円

2018年度
目標

連結売上高：1,200億円

連結経常利益率：8%台

海外売上高比率：50%以上

総資産回転率：1.05回転以上

4-2 「OCEAN-18」の主な事業戦略

- ① プレス・樹脂事業の拡充
- ② TPMS製品の拡充
- ③ 高精度プレス事業の拡充
- ④ アルミダイカスト事業の拡充

4-3 プレス・樹脂製品の強み

軽量化にこだわった技術開発

■ プレス製品

- ・超ハイテン材の冷間プレス技術
- ・ホットスタンプ技術
- ・アルミ材加工技術



超ハイテン材を用いた
センターボディピラー

■ 樹脂製品

- ・メッキに代わるデザイン自由度の高いフィルム転写技術
- ・防音・防振機能付き発泡成形技術



フィルム技術を用いたオーナメント



セレクトダブルカラートリムホイール



発泡成形エンジンカバー

4-4 超ハイテン材プレス加工の拡充

超ハイテン材プレス加工ラインの更なる増強

自動車メーカーの軽量化ニーズに応えるため、
日本・米国・中国のグローバル生産体制を拡充。

	導入拠点		加圧能力(t)	稼働時期
冷間プレス	日本	九州	2500	'14年2月
		大垣	3000	'14年10月
	米国	テネシー	3000	'16年5月
		オハイオ	3000	'18年春予定
	中国	天津	2500	'14年1月
ホットスタンプ	日本	大垣	500	'14年5月
		大垣	800	'16年11月
	米国	テネシー	800	'17年秋予定



超ハイテン材を用いた
センターボディピラー

18年度売上高増加見込：15年度比約80億円

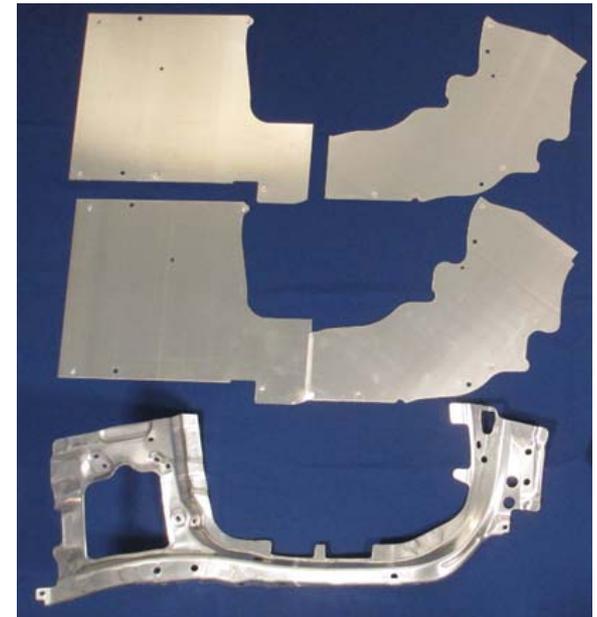
4-5 プレス技術の拡充

2016年“超”モノづくり部品大賞『自動車部品賞』受賞

■ 摩擦攪拌接合(FSW)技術の開発

摩擦攪拌接合とは、板厚の異なるアルミ材を、摩擦熱を利用して接合する工法。

軽量化と歩留り向上による低コスト化を実現。



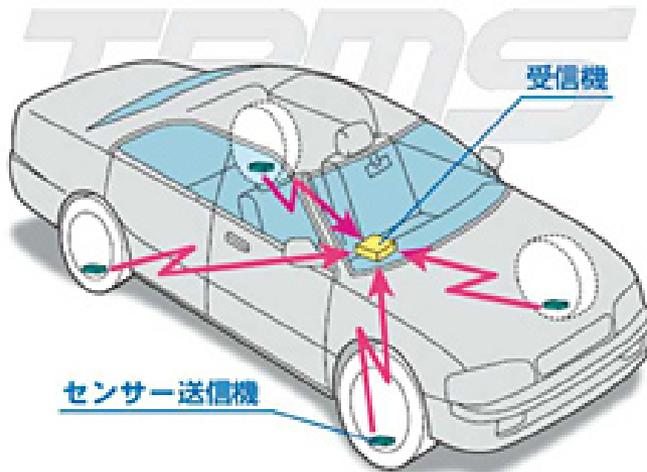
FSWを用いたアルミ板接合技術

18年度売上高増加見込:15年度比約40億円

4-6 TPMS製品の機能と強み

専門メーカーならではの高品質製品を提供

■ TPMSは安全性と燃費向上に寄与



タイヤ内部に装着されたTPMS送信機



タイヤ空気圧・温度
デジタルゲージ

■ 当社製品の強み

- ・日本唯一のTPMS送信機メーカー
- ・設計～開発～生産の一貫体制
- ・ノウハウを活かした品質管理



クランプインタイプ



スナップインタイプ

4-7 TPMS製品の拡充

開発・生産・販売体制を拡充、各国順次法制化

- ・次世代機種の開発
- ・受信機／システムメーカーとの協業
- ・グローバルで生産・販売体制を構築

生産・販売拠点		(16年)生産能力	販売先
日本	大垣	2,100万個/年	世界全域
米国	オハイオ	350万個/年	北米、欧州
中国	常熟	350万個/年	中国、他
ベルギー	ブリュッセル	—	欧州
合計		2,800万個/年	

■各地域の法制化の動き

地域	法制化開始時期
北米	2005年10月
欧州	2012年11月
韓国	2013年1月
台湾	2014年11月
ロシア	2016年1月
中近東	2017年モデル
中国	(2019年1月)
日本	未定

■中国常熟にて量産開始

- ・日系／ローカル自動車メーカーへ拡販



太平洋汽車部件科技(常熟)
TPMS生産工場開業式('16年9月)

4-8 高精度プレス事業の拡充

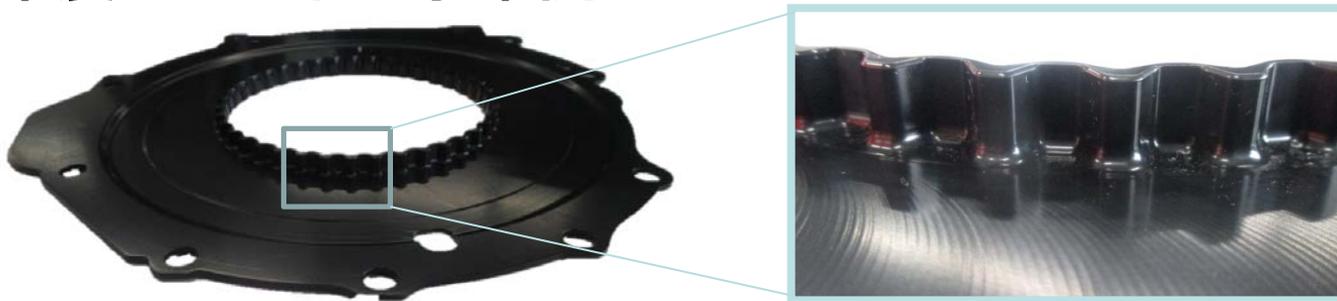
高精度プレスは板鍛造技術を活かし拡販

■ 当社の板鍛造技術

- ・板金成形と冷間鍛造を複合
- ・焼結、鑄造で不可能な薄肉化を実現
- ・エンジン／トランスミッション／ハイブリッド部品に採用

■ 拡販

- ・国内の生産能力増強、新技術開発、多客化
- ・17年度より北米で事業開始



「ワンウェイクラッチホールディング」が「新型プリウスPHVプロジェクト表彰」受賞

18年度売上高増加見込：15年度比約6億円

4-9 ダイカスト事業の拡充

アルミダイカスト事業の生産能力増強

■ダイカスト事業の強み

- ・韓国で顧客のニーズに応え
一貫生産体制を構築
- ・徹底した品質管理により高品質製品
を提供

■拡販

- ・駆動系部品への多客化
- ・物量増により生産能力を増強



カーエアコン用コンプレッサー



オイルポンプカバー

18年度売上高増加見込:15年度比約30億円

4-10 主な戦略投資の内容

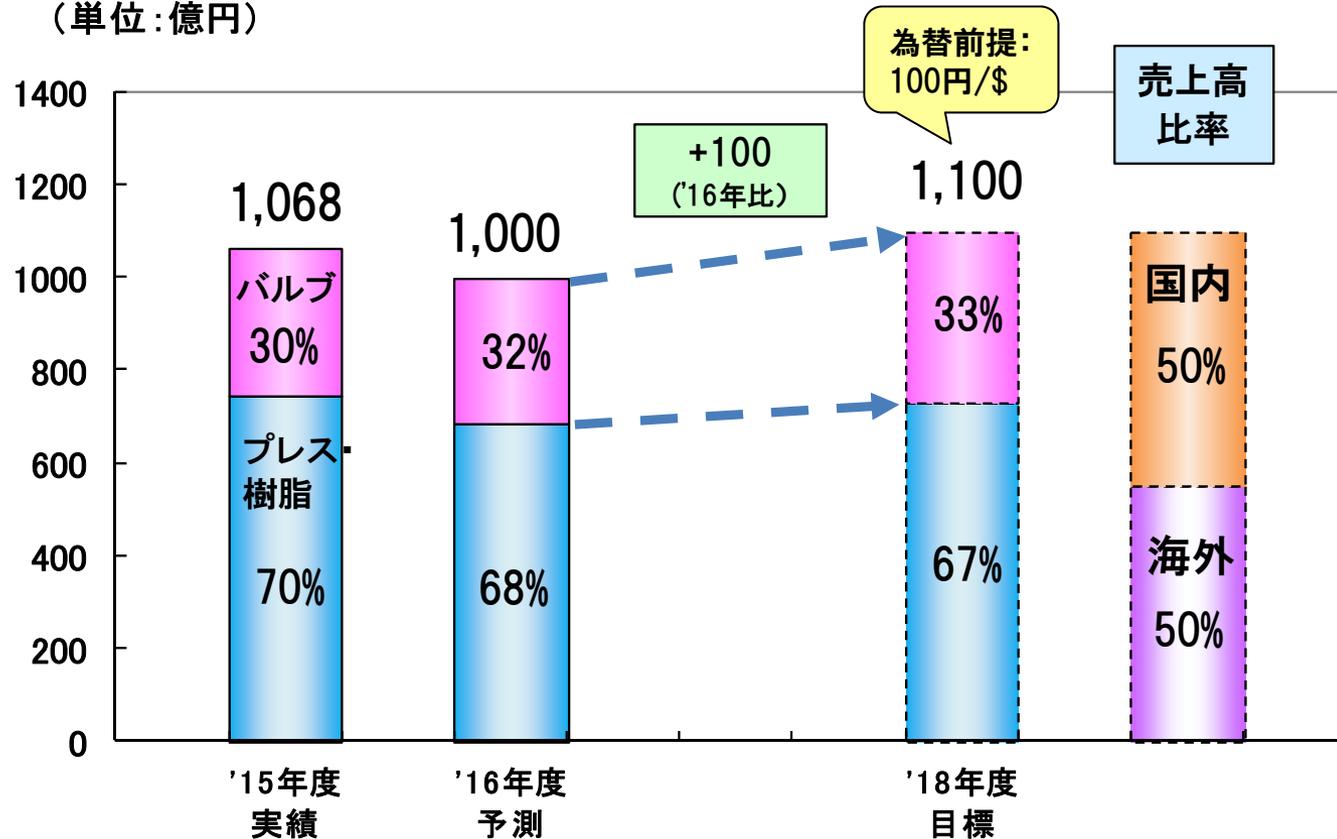
16年もニーズに応え積極投資を推進

事業	地域	内容	14年度	15年度	16年度	13-16累計
プレス樹脂	日本	東北地区拠点整備(プレス・溶接一貫工場建設)	18.0	4.0	—	23.0
	日本	超ハイテン、ホット・スタンプ拡充	10.0	2.0	12.0	35.0
	北米	米国オハイオ プレス工場増築・プレス増設		2.0	24.0	26.0
	北米	米国テネシー プレス事業拡充	38.0	9.0	8.0	55.0
	アジア	中国天津 プレス増設 他	—	—	—	16.0
	アジア	中国長沙 プレス工場・設備 他	14.0	—	—	29.0
	アジア	タイ 工場・樹脂設備 他	3.0	2.0	—	8.0
	プレス・樹脂事業 計		83.0	19.0	44.0	192.0
TPMS	アジア	中国常熟 TPMS工場・設備	2.0	17.0	2.0	21.0
	TPMS事業 計		2.0	17.0	2.0	21.0
バルブ	日本	高精度プレス事業の増強	1.0	11.0	11.0	24.0
	アジア	韓国 アルミダイカスト工場・設備	8.0	3.0	8.0	32.0
	バルブ事業 計		9.0	14.0	19.0	56.0
主な戦略投資の合計			94.0	50.0	65.0	269.0
総投資額			153.9	119.8	152.2	537.5

4-11 OCEAN-18の進捗状況

OCEAN-18の目標は達成見込み

(単位:億円)



【プレス・樹脂事業】

- ・超ハイテン事業拡充
- ・北米プレス事業拡充
- ・タイ樹脂事業拡充

【バルブ事業】

- ・TPMSのグローバル販売
- ・高精度プレス事業拡充
- ・アルミダイカスト事業拡充

ご参考資料

当社の概況

- ◆創業 1930年8月
- ◆代表者 社長 小川信也
- ◆株式 東証・名証一部上場('70年8月) 証券コード:7250

セグメント		プレス樹脂製品 事業	バルブ製品事業		その他	合計
事業			タイヤバルブ・制御機器事業	TPMS事業		
連 結	'16売上高(予想)	686億円(69%)	312億円(31%)		2億円(0%)	1,000億円
	人員	2,250人	1,000人		60人	3,450人
	海外生産拠点	台湾・米国 中国・タイ	台湾・韓国・タイ	米国 中国	—	5ヶ国 10工場
主要製品		プレス加工 樹脂加工、金型	タイヤバルブ、バルブコア 空調用制御弁 カーエアコン用コンプレッサー部品	TPMS	ソフトウェア 保険代理店	
主要顧客		トヨタ、ダイハツ、日野 三菱、ホンダ、スズキ プライムアースEVイナジー	ブリヂストン、横浜ゴム、住友ゴム、東洋ゴム イノアック、ミシュランタイヤ、トピー工業 デンソー、豊田自動織機、サンデン、HANON ヴァレオ、パナソニック、東芝	トヨタ 日産 ホンダ	地域企業	
単 独	'16売上高(予想)	414億円(64%)	107億円(16%)	129億円(20%)	—	650億円
	主要工場	西大垣・東大垣・養老 九州・栗原・若柳	美濃・北大垣	北大垣	—	国内8工場

企業結合の状況

プレス・樹脂製品事業		バルブ製品事業		その他	
連結	台湾	太平洋汽門工業股份有限公司 1984年設立 売上高:40億円 人員:260人		国内連結子会社	
	タイ	Pacific Industries (Thailand) Co., Ltd 1989年設立 売上高:25億円 人員:245人			
	米国	Pacific Manufacturing Ohio, Inc. 1999年設立 売上高:203億円 人員:530人		ピーアイシステム(株) 1987年設立 売上高:8億円 人員:65人	
		Pacific Manufacturing Tennessee, Inc. 2014年設立 売上高15億円 人員:40人			
	中国	天津太平洋汽車部件有限公司 2005年設立 売上高:62億円 人員:190人	韓国	太平洋バルブ工業株式会社 1987年設立 売上高:15億円 人員:75人	持株会社等
		長沙太平洋半谷汽車部件有限公司 2011年設立 売上高:10億円 人員:100人		太平洋エアコントロール工業株式会社 2004年設立 売上高:39億円 人員:190人	
国内	太平洋産業株式会社 1974年設立 売上高:10億円 人員:20人	中国	太平洋汽車部件科技(常熟)有限公司 2014年設立 売上高8億円 人員:25人	Pacific Industries USA Inc. 1988年設立	
持分法適用会社	PECホールディングス株式会社(日本) 1961年設立 売上高:205億円 人員:950人	欧州(非連結)	Pacific Industries Europe NV/SA 2012年設立	太平洋工業(中国)投資有限公司 2012年設立	

PACIFIC GLOCAL VISION 2020

GLOCALとは、「GLOBAL」と「LOCAL」を組み合わせた造語です。私達は、世界(GLOBAL)を舞台に成長を図り、それぞれの地域(LOCAL)の発展に貢献したいと思っています。

めざす企業像・機能のあり方

< 創立100周年 2030年への一里塚として策定 >

- 「連結経営」から「融合経営」へ
- 5つの“シンカ”(深化・進化・新化・真価・信加)を追求する企業

5つの“シンカ”



- ① **深化** : 改善する力
- ② **進化** : 革新する力
- ③ **新化** : 新技術・事業を起こす力
- ④ **真価** : 企業価値を高める力
- ⑤ **信加** : 信頼を勝ち取る力

CSRのトライアングル



創業85周年を迎えて

PACIFIC VALUES

(創業85周年を機にグループ共通の価値観を整理)

PACIFIC VALUES



私たちの心構え

夢と挑戦

信頼と感謝

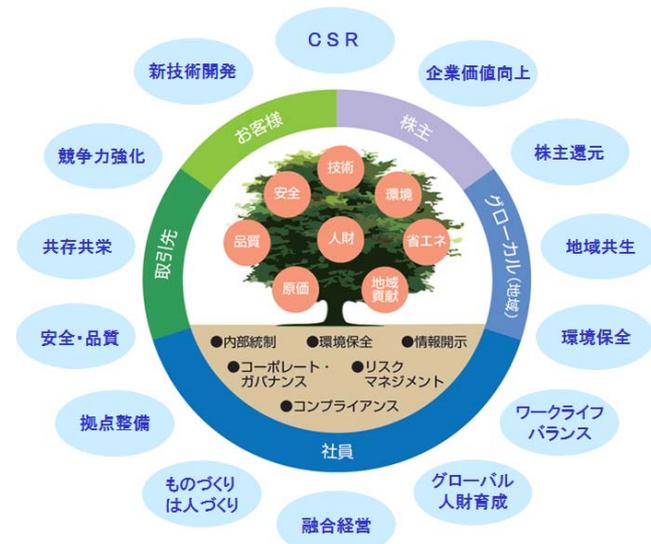
【夢と挑戦】

- ・常に夢(目標)を持ち、失敗を恐れず挑戦する。
- ・失敗しても次の夢への糧にし、その夢を追い続ける。

【信頼と感謝】

- ・「和」を大切に、常に相手の立場に立って考える。
- ・自然に「ありがとう」という言葉が生まれる風土をつくる。

企業価値向上の取組み



コーポレートガバナンス・コード:全73項目を遵守

「5つの基本原則」

①株主の権利・平等性の確保

株主総会における議決権行使環境の充実化(インターネット議決権行使、招集通知の3週間前開示)等

②株主以外のステークホルダーとの適切な協働

ステークホルダーとの相互信頼・共存共栄(経営陣から独立した相談窓口)等

③適切な情報開示と透明性の確保

経営課題、リスク等の非財務情報の適時・適切な開示

④取締役会等の責務

事業の戦略的方向付け

透明な経営プロセスの構築(社外役員連絡会、役員テーマ懇談会)等

⑤株主との対話

投資家目線での対話、基本方針・目標の提示と具体的アクションの説明